

営農情報

第97号 平成22年12月1日発行

(麦)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

麦の播種は11月中旬頃から始まりました。今後の降雨情報に注意し、適期播種に努めてください。

1 基肥・播種量と小麦生育の関係

	小麦の生育(問題点)	基準(10aあたり)
基肥が多いと...	1粒からの分けつが多くなり生育過剰な上、弱い穂が多く立ち、倒伏しやすくなる。遅播きの場合でも、基肥量は増やさない。	基肥量 40kg
播種量が多いと...	芽立ち本数が増加し、過繁茂になり倒伏しやすくなる。	播種量 6~7kg

2 大豆後麦播種の注意点

深播きにならないよう、播種深度をやや浅くします。また、出芽及び分けつが良く生育過剰になりやすいので、基肥は半分(20kg)にし、播種量は適期播種の場合で5~6kgにします。大豆の収穫が遅れ、遅播きになる場合の播種量は、7~9kgです。

3 除草剤散布

雑草の発生状況を観察し、処理時期が遅れないように散布します。なお、除草剤の使用に当たっては、周辺の他作物にかからないよう注意し散布してください。

除草剤名	使用時期	10a使用量
ボクサー(乳剤)	播種後~麦2葉期(雑草発生始期まで)	400~500ml
クリアターン細粒剤F	播種直後~麦出芽前(雑草発生前)	4~5kg
ガレースG(粒剤)	播種後~麦2葉期(雑草発生始期まで)	4~5kg
サターンバアロ粒剤	播種後~双メテッウ1.5葉期まで	4~5kg
ハーモニー細粒剤F	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~発生始期)	4~5kg

注1:ボクサー、ガレースG、サターンバアロ粒剤は、麦の出芽後も散布可能だが、播種後早いうちに散布した方が、除草効果は安定する。

注2:ハーモニー細粒剤Fは、残効が短いので雑草発生始期での散布が好ましい。

注3:カズノコグサの多い場合は、播種直後の土壌処理剤+1月上旬~下旬のハーモニー75DF水和剤の薬剤体系防除と土入れを組み合わせで防除する。

4 麦踏み、土入れ

(1)麦踏みは、麦の葉が3枚以上になってから行います。

(2)土入れは、麦の葉の枚数が3~4枚になったら始めます。